

第3話「ことばにしまさや伝わらない」

課題	相手に伝えたいことがあるが、うまく言えない
ストラテジー	自分が知っていることばで言えることを言う
効果	自分が思い描いた形ではなくても、自分が言いたいことの一部を伝えることで、コミュニケーションを続けることができる

<課題>

相手に伝えたいことがあるが、うまく言えない



麗は先輩に怒られていました。元気がない麗を見たスアンは、麗に話しかけて、自分の経験やベトナム語のことわざを使ってはげまそうとします。しかし、日本語でうまく言うことができなかったため、伝えるのをあきらめてしまいました。

<ストラテジー使用場面>

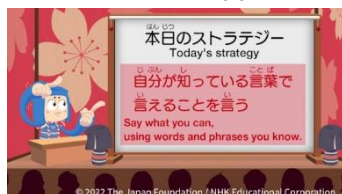


スアン：私が言いたいのは、
私も大変ですけど、でも一緒にがんばりましょう！
ということです。

麗：ありがとう。

<スアンが使ったストラテジー>

自分が知っていることばで言えることを言う



スアンは自分の経験を話したり、ベトナムのことわざを使ったりして、麗をはげまそうとしました。しかし、スアンはまだ知らない日本語も多いので、うまく伝えることができませんでした。そこで、自分が知っていることばで言えることを言うというストラテジーを使って、麗をはげまそうとしました。その結果、スアンの気持ちが麗に伝わりました。

<どんなストラテジー？>

知らないことばが多いと、言いたいことがあっても、うまく日本語で言うことができないということがよくあると思います。でも、話すのをあきらめてしまったら、相手には何も伝わらず、そこでコミュニケーションも終わってしまいます。

今回のストラテジーは、知っていることばを使って、言えることを言うというストラテジーです。もともとと言いたかったことをそのまま日本語で言うことはできなくても、知っていることばだけを使って話してみると、スアンのように相手にちゃんと伝えることがあり、コミュニケーションを続けることができます。目的は相手に気持ちを伝えることですから、小さなことでも、自分のことばで試みることが大切です。

たくさんことばを知らないとコミュニケーションができないというわけではありません。このストラテジーを使えば、コミュニケーションを続けるチャンスを作ることができます。積極的にコミュニケーションに参加していくための大切なストラテジーだと言えます。

<どうやって使う？>

スアンは麗をはげますために、自分のベトナムでの経験やベトナムのことわざを使おうとしましたが、それをうまく日本語で説明することができませんでした。このように、今の自分にとって説明が難しいことや難しい話題について話すときに、このストラテジーが使えます。

スアンは、ストラテジーを使って「私も大変ですけど、一緒にがんばりましょう」と言いました。とてもシンプルな文ですが、このような文でも「麗をはげめたい」という気持ちはよくわかります。このように、もし難しくてもうまく表現できないと思ったときは、あきらめずに、もともと自分が言おうと思っていた形とは違っても、シンプルでもいいので自分が知っていることばで試してみましょう。

ストラテジーを使うとき、スアンは「私が言いたいのは…ということです」という文型を使っていました。この文型は、スアンのように、言いたいことが言えなくて、もう一度チャレンジをするときに使えます。また、このような表現を使えば、言いたいことを別の表現で言い換えて伝えようとしていることも相手に伝わります。ただ、ストラテジーを使うときはいつもこの文型を使わなければならないというわけではありません。うまく言いたいことが言えないと思ったら、はじめから知っていることばだけを使ってメッセージを考えてもいいです。